

福井県総合グリーンセンター(1/2)

広い芝生のグリーンパークや木々の緑豊かな都市公園！ 林業に関する試験研究機関

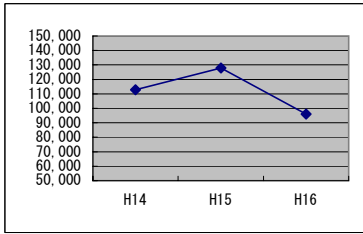
所在地	坂井郡丸岡町楽間15		
設置年月日	昭和55年4月1日		
施設の種類	林業試験場および緑化植物園・公園	施設管理主体	県
設置の目的	県民がみどり豊かな自然環境の中で、みどりを愛し、みどりを生活の中にとりこんでゆくために必要な知識や技術の普及と啓発活動を行い、もって県土緑化の推進に役立つことを目的としています。		
概要 (構造、面積、主な機能)	林業試験部では森林の育成、林業に関する特産物の開発、木材の開発等の研究を行っており、また園内には都市緑化植物園(熱帯展示温室、みどりの相談所、季節の草花の展示温室等)とグリーンパーク(展示室や展望台があるウッドリームフクイ、北前船の展示やカラクリ時計があるウッドハウス九頭竜、大きな芝生広場や水上ステージのふれあい広場、ミニボート池、子供用遊具等)があり、園内には約1,150種で約75,000本の展示木が植えられています。		
職員数	正職員24人、非常勤嘱託8人 アルバイト4人 計36人		

利用状況等

	H14	H15	H16
利用者数(人)	112,747	127,872	96,093

利用者負担(利用料金)等

入園料	無料
九頭竜和室	1日 3,100円
試験機器	機器の種類により設定



利用状況の推移	来園者の多くは屋外の公園の利用が目的であり、その年の天候に大きく左右される傾向にあります。平成16年度は春や秋の幼稚園や小学校の遠足シーズンの天候が不順であり、特に台風が3回福井県に接近したことから、入園者が減少しました。
---------	---

16年度の特徴について

事業実績	公園管理部門	・森林が暮らしや環境に与えてくれる様々な恵みを、体験を通じて理解できるよう、ウッドリームフクイの展示コーナーの全面改修									
	緑の相談業務	・相談件数 単位:件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成14年度</th> <th>平成15年度</th> <th>平成16年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,050</td> <td>1,035</td> <td>1,248</td> </tr> </tbody> </table>	平成14年度	平成15年度	平成16年度	1,050	1,035	1,248			
平成14年度	平成15年度	平成16年度									
1,050	1,035	1,248									
	緑の教室	・開催回数および参加者数 単位:人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成14年度</th> <th>平成15年度</th> <th>平成16年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15回</td> <td>15回</td> <td>16回</td> </tr> <tr> <td>618</td> <td>599</td> <td>614</td> </tr> </tbody> </table>	平成14年度	平成15年度	平成16年度	15回	15回	16回	618	599	614
平成14年度	平成15年度	平成16年度									
15回	15回	16回									
618	599	614									
	イベント	・「グリーンフェア2004」を10月に開催(来園者 約17,000人)									
	試験研究部門	<ul style="list-style-type: none"> ・多雪地帯のスギ育林技術に関する研究成果の取りまとめ ・トタンを用いたクマ剥皮防止対策の実証 ・廃培地を利用したハタケシメジ栽培の実証試験 ・ウスヒラタケ優良品種「ふくひら2号」の機能性成分調査(平成15年2月品種登録済) ・県産スギの低コスト乾燥技術の開発 ・木質バイオマス等未利用資源を利用したペレット燃料の開発 ・産学官の連携を強化し、大学および県内3試験研究機関とキノコやペレット燃料の共同研究を実施 ・松くい虫の成虫の発生推移の調査を実施し、羽化脱出時期を予測し、防除適期を特定 									

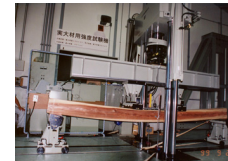
観光との連携

- ・各種ガイドブックに情報を提供。
- ・園内に県内の観光ポスターを展示し、来館者への情報提供を行ないました。

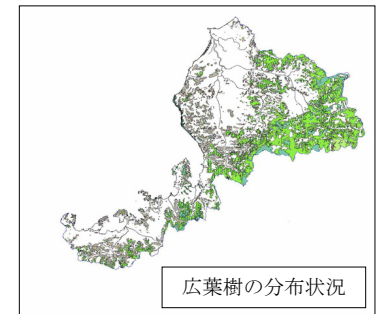
研究の状況 「施設のHPを参照」



ハタケシメジの育成



木材強度試験



福井県総合グリーンセンター(2/2)

行政コスト計算書(平成16年度) (単位 千円)

		総額	構成比
人にかか るコスト	人件費	255,156	35.4%
	退職給与引当金繰入	188,638	26.2%
	計	443,794	61.6%
物にかか るコスト	物件費	191,329	26.5%
	維持補修費	30,162	4.2%
	減価償却費	55,534	7.7%
	計	277,025	38.4%
その他	公債費(利子)	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	計	0	0.0%
合計		720,819	100.0%

バランスシート(平成17年3月31日現在) (単位 千円)

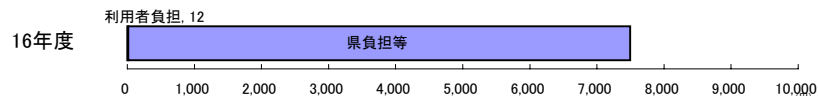
借方		貸方	
資産		負債	
有形固定 資産	1,501,503	固定負債	188,638
投資等	0	流動負債	0
流動資産	0	正味資産	1,312,865
計	1,501,503	計	1,501,503

(単位 千円)

収入			
利用料等収入	1,152	0.2%	
その他収入	3,664	0.5%	
一般財源	716,003	99.3%	

利用料等収入計	1,152,000 円
利用者1人あたり平均利用料	12 円
利用者1人あたりコスト	7,501 円

利用者1人あたりのコスト負担の状況



バランスシート、 行政コスト計算書の 特色	<p>試験研究部門の経費が算入されているため、一人当りの費用は高くなっています。</p> <p>入園料が設定されていないことから、施設利用料等の割合は少なくなっています。</p> <p>展示施設の大規模改修を実施したため費用が増加しました。</p>
-----------------------------	--

施設の特徴	<p>・樹木や花を展示する「都市緑化植物園」と木造施設や遊具等が利用できる「グリーンパーク」の二つの大きなゾーンから構成されており、県民の「憩いの場」として利用されています。</p> <p>・施設内に林業に関する試験と研究する機関が設置され、森林の造成管理、病害虫の研究、特用林産物・キノコの開発、県産材の新たな需要開発や木質バイオマス等に関する研究を行っています。</p> <p>・面積21.5haのなかに、谷・川・池の造成や樹木植栽、タマネギ型の熱帯展示温室、ヨーロッパの古城を思わせる「ウッドリームフクイ」、木造建築の「九頭竜」、盆栽展示施設、木製遊具などが設置されており、周囲の住宅環境や田園風景にマッチした総合的な「木と花と緑」に関する拠点施設となっています。</p> <p>・「ウッドリームフクイ」の展示施設を改修し、来園者に森林や木材のよさを、より良く知ってもらうため、パネルや展示物から緑あふれる野外へと案内するサービスを行っています。</p>
平成16年度の活動	<p>・「グリーンフェア2004」を10月に開催し、造形作家の専門家を招いて小枝や木の葉を使ったアートクラフト体験会の実施およびロープと道具を使って木に登るツリークライミングを初めて行い、非常に好評でした。</p> <p>・来園者は年間96,000人で、団体が260団体、24,000人余りであり、県外からも17団体で約5,000人が来園するなど、本県の重要な観光資源の一つとなっています。</p> <p>・緑の相談業務では、本年新たに近くの公的機関へ草花栽培の実技指導を行いました。また、緑の教室では大学医学部講師を招き、癒し系講座「植物に囲まれて健康になろう」を新たに開設しました。さらに地区盆栽会主催の「盆栽初心者講習会」を年7回開催しました。</p> <p>・小学校の団体を対象とした緑の相談員による「都市緑化植物園」の案内や、グリーンインストラクターによる樹名クイズを実施するなど、来園者へのサービス向上に努めています。</p> <p>・林業試験研究について、県産材活用の研究など本県森林・林業の活性化に向けて研究しています。(詳細は前述の「事業実績」とおり)</p>
今後の事業方針・取組内容	<p>・県民サービス第一主義を念頭において、県民に開かれた施設として適切に管理し、サービスの向上に一層努めます。</p> <p>・来訪者の大部分が幼稚園や小中学生の遠足や親子づれであることから、園内全域の安全管理を徹底し、遊び池や噴水遊具等危険箇所の常時点検を行います。また、多種大量の樹木(1,150種、75,000本)の管理を重要課題と位置づけ、今までに培われた技術を駆使し管理します。</p> <p>・県民が何度でも来園してもらえよう、緑の相談員やグリーンインストラクターによる来園者への案内の増加など、ソフト面の充実を図ります。</p> <p>・緑の相談員が近くの公的機関等に出張指導するなどして、地域の人々に愛され親しまれる施設づくりを目指します。</p> <p>・林業試験・研究について、研究と普及の一体化による迅速な試験研究成果の技術移転およびPRを図ります。また産学官の連携した共同研究を更に進めます。</p>